

2022年度の授業

グループワークでは、各グループで取り組みたいマイノリティ問題を決め、各自で調べたことや共生と社会についての学びをいかし、マイノリティの人びとが生きやすい社会をデザインしました。つぎに、それぞれの発表に対して、他のグループのメンバーがコメントをしました。最後に、これらのコメントをもとにして、改めて社会デザインを考えるレポートを作成しました。なお、各グループで取り組んだマイノリティは、性的マイノリティ、障害者、在日外国人でした。

受講者の感想

- ◆ 3Qの「マイノリティのライフストーリー」から考えてきたセクシャルマイノリティに関する課題の解決策を考えることができた。この授業を通してその他のマイノリティの人々が抱える問題について詳しく知ることができた。また、各グループの解決策を踏まえて自分がこれから生きていく上でマイノリティの人々が住みやすい社会にするためにできることは何なのかについて考えるよいきっかけになった。
(創造工学部1年生)
- ◆ マイノリティの過去やライフストーリー、共生の視点から物事を捉えて考えるという形式は、調べ学習をする際や授業づくり(教育学部のため)でも活かせるのではないかと思います。あまり見知った人のいない授業で、グループワークがどうなるか最初の頃は心配していましたが、無事にグループ発表を終えることができたのではないかと思います。(教育学部1年生)
- ◆ 語りを分析する視点や共生の考え方が大きな学びだった。私は講義を受講する前は差別される人と差別する人、普通の人間と無意識にカテゴリー化してしまっていた。しかし、今回グループ発表を聞いて、自分も当事者として差別に向き合わなくてはならないと思った。自分のグループ発表については、KJ法での付箋ごとの関連づけが上手くできたため、いつもよりよい構成でグループ発表できた。(創造工学部1年生)